

重粘土



十勝管内の重粘土に分類される畑の土壌断面です。

この土壌は、粘性が高いため通気性・作業性・排水性が悪く、水分含量が高いと泥濘化でいねいかする一方で、いったん乾くとコンクリートのように硬くなるという非常に扱いづらいものです。

このような畑は、改良しなくては作物は全く育ちません。このような農地を割り当てられた人達は、昭和30年代までは、毎年、泥だらけになりながら手作業で溝を掘り、排水性を高めるために粗朶<そだ>(細い木を切って束ねたもの)などを埋める作業を秋から冬にかけて家族総出で延々と続けました(粗朶<そだ>暗渠)。それでようやく次の年に収穫できるための最低条件が整うのです。

昭和40年代以降、畑総事業などで明渠排水・暗渠排水が補助事業として推進されるようになって、そのような過酷な重労働から解放されたのでした。